

○平成 29 年度 12 月 和歌山県議会定例会（関連部分抜粋）

（平成 29 年 12 月 8 日）

【山田正彦議員 質問（自由民主党県議団）】

I R 誘致の実現に向けて、ギャンブル依存症対策をしたうえで、事業者の足枷となる外国人専用という方針を転換してはどうか。

【知事答弁】

続きまして I R の関係でございます。ご指摘のように I R の誘致に関しては、観光振興に寄与するとともに、経済波及効果や、あるいは雇用創出効果が期待できまして、これは地域活性化に必ずつながる有効な手段と考えまして、政府で今日のように I R の議論が始まる前から全国に先がけて行動して参りました。

そこで、ご指摘の依存症の話でございますけれど、実は私は各国の先例とか政府の意思、こういう風にするんだ、特に安倍総理は「世界一の厳しい規制をするんだ」という風に言っておられるのから見て、本当は心配しておりません。

しかし、初めてのことでございますので、「I R 導入によってギャンブル依存症の疾患が助長されるおそれがある」という懸念を抱く方もたぶんおられるんじゃないかと思ひまして、それならば、そういう方々が心配されないように実効性のある規制が設けられるまでは、最も安全な手段としてはですね、「I R の中のカジノ施設に限っては日本人を入場させない」という考えを打ち出したわけでございます。そうしたら安心でしょうという風に思うわけであります。

ところがですね、そう言っても何が何でも反対という人もいるなということを最近よく実感いたします。たくさんの人ではありませんが。それからですね、これも意外でしたが、自分達も是非いれてくれという方々がたくさんいらっしゃるということが、色々な会合の席やパーティーその他でお話をしているとわかりました。それが感想でございます。

I R 推進会議が取りまとめた方向性を見ますと、議員ご発言のとおり、ギャンブル依存症対策として、入場料の賦課やマイナンバーカードを利用して週及び月単位の入場回数を制限するというようなことが書かれております。

さらに、その入場回数をカジノ管理委員会で一元管理するということですね、例えば和歌山と大阪に出来た場合、複数の別のカジノ施設への入場についても回数が合算して把握されるような手立てを講じるんだ、というようなことを書いてあって、そういう意味では「国民の理解を得るように頑張っている」ということだと思います。ちょっと想像でございますけれど、和歌山県の発しました「カジノルームは外国人専用」というこの考えがですね、かなりインパクトがあったんじゃないかと、この検討会議の検討ですと、それで色々それに代わるものとして考えてくれたんじゃないかという気もいたします。

しかし実際にですね、このような方針が法律になる、すなわち I R 実施法案に反映されるのか、現実には法案の文案とそれからその実施法令によってどのような制度が出来ていくのか、これはちゃんとよく見極めなければいけないと思います。

ギャンブル依存症の防止というのはですね、これはとても県民の幸せにとって大事なことでございますので、議員ご質問の外国人専用の見直しについては、今後上程されるIR実施法案において、国民が納得できるような依存症対策が確立されているかどうか、確立されていくかどうか、慎重に見極めていきたいと思っております。それまではですね、和歌山県民、技術的に難しいので日本人はカジノ施設に入場させないという方針も、まだ意義を失ったわけではないというふうに私は思っています。

しかし、様々な観点から考えていかないといけませんので、今後とも、議員におかれましてはご指導の程宜しくお願い申し上げます。